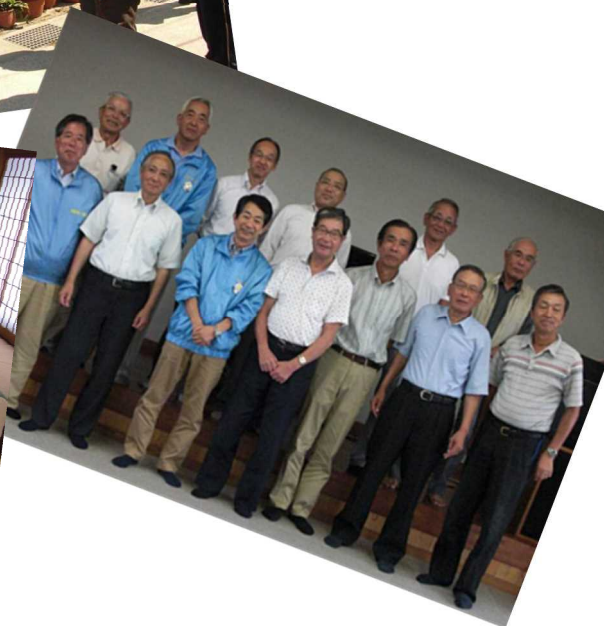


# 西播磨地域の

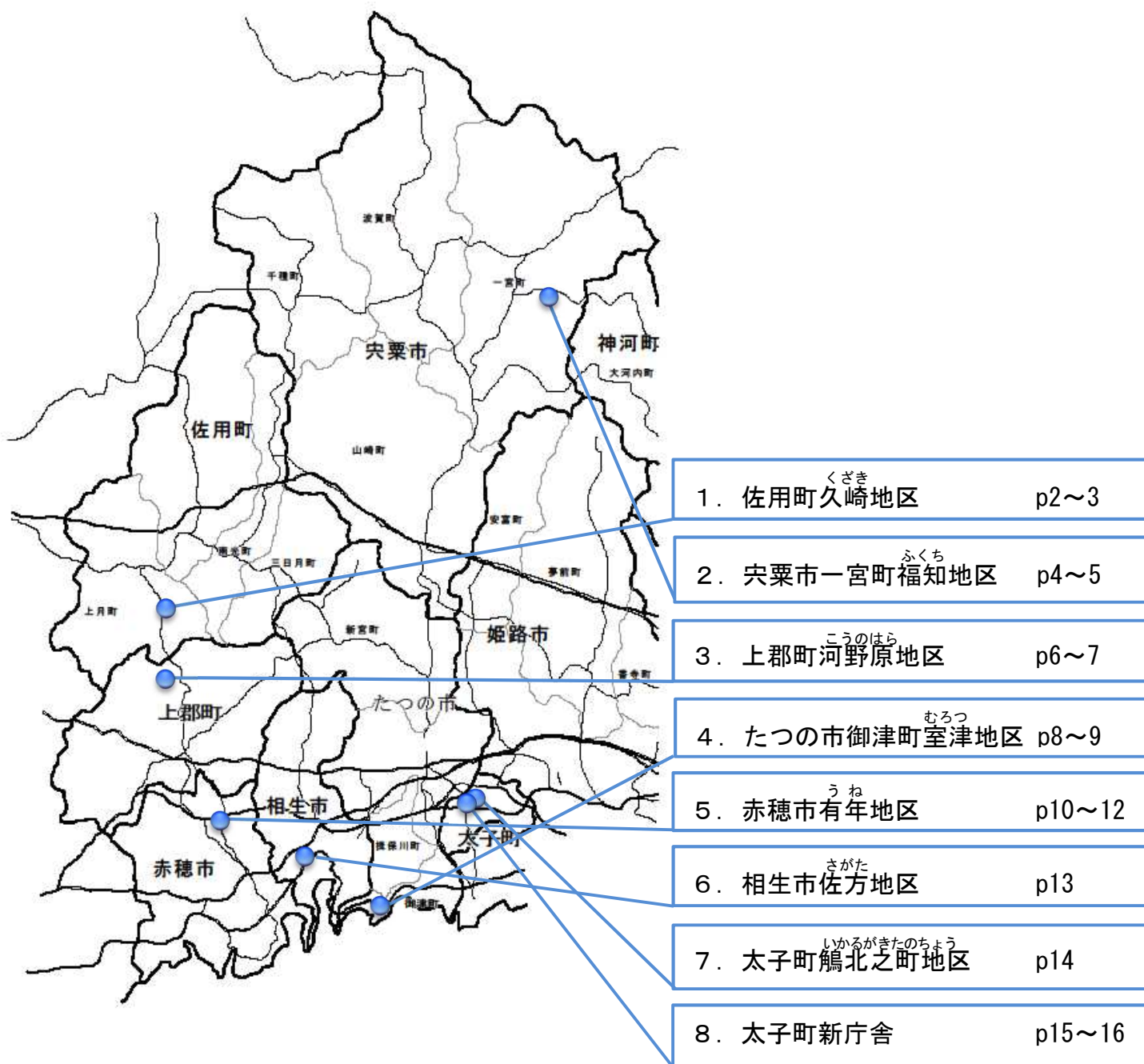


## 防災・減災活動の紹介



## 目 次

1.	佐用町	久崎地区視察報告（河川氾濫・浸水被災）	2 ~ 3
2.	宍粟市 一宮町	福知地区視察報告（河川氾濫・土石流・浸水被災）	4 ~ 5
3.	上郡町	河野原地区視察報告（河川氾濫・土石流・浸水被災）	6 ~ 7
4.	たつの市 御津町	室津地区視察報告（総合防災訓練）	8 ~ 9
5.	赤穂市	有年地区視察報告（河川氾濫・浸水被災）	10 ~ 12
6.	相生市	佐方地区視察報告（総合防災訓練）	13
7.	太子町 鵜	北之町地区視察報告（総合防災訓練）	14
8.	太子町	太子町新庁舎視察報告（総合防災拠点）	15 ~ 16



## ■ はじめに



兵庫県では、2020（平成32）年頃の西播磨地域の目指すべき姿を描く、「西播磨地域ビジョン～光と水と緑でつなぐ～元気・西播磨～」を策定しています。私たちが所属する「西播磨地域ビジョン委員会」は、西播磨地域ビジョンの実現に向け、知事から委嘱され、率先して実践活動を行う、6チーム、72名の県民で構成されています。私達「生活安全推進チーム」は、「住みなれた地域で支え合って共に生きる」を目標に、西播磨地域の安全安心に貢献したいという強い思いを持った10名のメンバーで活動しました。

近年、さまざまな形で自然災害が増加しています。西播磨地域では、過去に台風や局地的豪雨による洪水、土砂災害、浸水により甚大な被害を蒙りました。私たちのチームは、西播磨地域を「過去に大きな災害を経験した地域」と「防災・減災に積極的に取り組んでいる地域」に分けて、各市町の代表的な自治会を訪問し、現地視察する事で、被災当時の状況や地域の防災・減災対策、災害記憶の伝承について学ぶ事ができました。

地域環境や地理的特性の差はあるものの、いつどんな形で発生するか予測し難い自然災害に対して、自分の命は自分で守る「自助」の精神を基本に、周囲の人達の協力で互いに助け合う「共助」の精神、個人で出来ない組織的支援を行う「公助」の大切さをこの活動を通じて理解しました。

この冊子は、私たち「生活安全推進チーム」が、2年間かけて活動した足跡を記録したものです。

この冊子が県民、地域の皆さんの防災・減災活動の参考としてお役に立てば幸いです。ご協力いただきました関係各位にはこの書面にてお礼申し上げます。

第7期西播磨地域ビジョン委員会 生活安全推進チーム



区分(被災)	河川氾濫・浸水被災	視察年月日	平成26年9月1日
視察市町	佐用町 久崎地区	参加者	8名

概要  
平成21年8月9日、台風9号の豪雨は佐用町において時間雨量89ミリ、24時間雨量326.5ミリを記録するなど、町の観測史上最大を記録する豪雨となり、死者18名・行方不明者2名の人的被害をはじめ、1,700戸以上の家屋損壊、河川・道路・農地・農業用施設等の広範囲かつ大規模な損壊、農作物被害など甚大な被害をもたらした。特に、久崎地区は千種川、佐用川の両河川に挟まれた地形で、戸数170戸の内、9割近くが何らかの被害を受けた。



VTRによる被災状況説明



パネルによる被災状況説明



佐用川破堤箇所を視察



河川氾濫・浸水地域を視察



浸水被害家屋を見学



壁に水位の痕跡  
到達水位 2 m以上



到達水位銘板

災害を風化させないように



到達水位

台風9号の記憶を・・・



いつとき・・・

佐用町オリジナル「いつとき避難所」



佐用町の皆さんと意見交換



佐用町の皆さんと視察メンバー



ご案内頂いた久保課長、森田職員  
ボランティアガイドの井口、鍋島さん

コメント

- ①防災マップの作成は、住民を巻き込んで住民目線で確認し、行政と共同で作成している。
- ②災害を風化させない為に、過去の体験談を「地域コミュニティ」の中で語り継いでいる。
- ③災害を風化させない為に、町並みに「到達水位」標示板あり。
- ④指定避難所へ移動が困難な場合は、2階に避難する等「垂直避難」が有効。  
(いつとき避難所設置へ発展)
- ⑤日頃から自治会活動などを通じて地域住民の結束が図られており、災害時に生かされた。

区分(被災)	河川氾濫・土石流・浸水被災	視察年月日	平成26年11月19日
視察市町	宍粟市一宮町福知地区	参加者	5名

概要

平成21年8月9日から10日未明にかけて西播磨を襲った集中豪雨は、時間雨量70ミリを越す記録的な豪雨となり、一宮町においても時間雨量78ミリを記録し各所に甚大な被害を及ぼした。福知地区でも河川の増水氾濫により、2箇所の橋の流出、道路の損壊による孤立地区の発生や、電気・水道などのライフラインの寸断、携帯電話まで不通となった。このような状況の中、死者が発生しなかった事は、自治会組織(自主防災活動)・消防団の功績が大きく「地域力」が発揮されたものと思われる。(「災害対策と減災への取り組み」一部引用)



福知自治会の皆さんと意見交換



福知地区の皆さんと視察メンバー

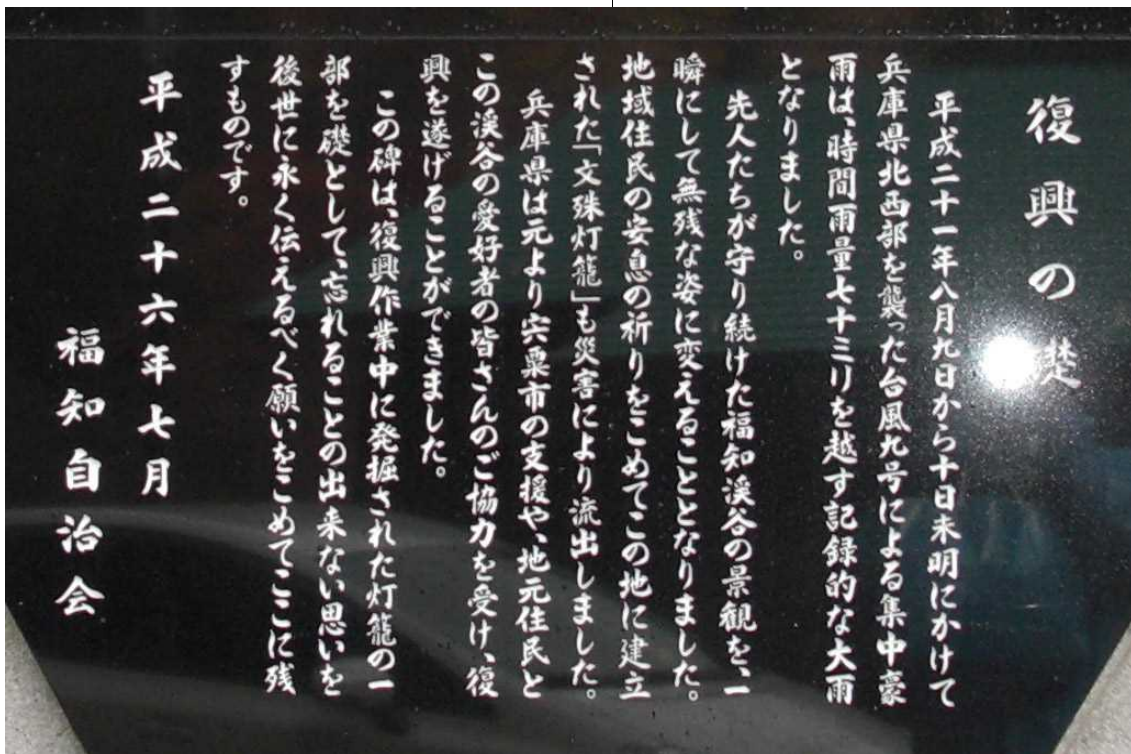


福知溪谷での復興状況視察





災害を風化させない為に



力強い復興の碑文

コメント

- ①災害を風化させない為に、地域の危険個所を日常的に若い世代に語り継いでいる。
- ②日頃から自治会役員が居住者の所在を把握している。
- ③日頃から自治会(自主防災組織)を中心に避難訓練を行っている。
- ④災害当日は隣保長が住民の避難誘導にあたった。

区分(被災)	河川氾濫・土石流・浸水被災	視察年月日	平成27年1月27日
視察市町	赤穂郡上郡町河野原地区	参加者	10名

概要

平成21年8月9日から10日未明にかけて台風9号の影響による豪雨は西播磨全域に甚大な被害を与えた。上郡町河野原地区では幸い人的被害はなかったが、千種川の氾濫による家屋への浸水、農地への土砂流入など甚大な被害を及ぼした。戸数33戸の内、床上浸水家屋12戸、床下浸水家屋11戸、半壊1戸(約70%)の被災を蒙った。



山田元自治会長から被災状況報告



山田元自治会長と視察メンバーの意見交換



屋外視察



円心館を視察



住民が一時避難した「河野原円心駅」高架線





架け替えられた「こうのはらはし」



護岸工事が進む千種川



河野原側の堤防



工事はまだ続いている



コメント

- ①過去の被災体験から「自助」に徹した地域。
- ②災害発生の中中は「自分の身は自分で守る」という事を地区全体に徹底している。
- ③各戸で避難方法が周知されている為、避難訓練は実施しなかった。
- ④村に伝わる「古文書」を読む会を中心に、過去に起きた災害記憶を風化させないように努めている。
- ⑤河川改修、護岸工事などハード対策も行政に要望実施している。

区分(防災)	総合防災訓練(津波・高潮対策)	視察年月日	平成27年5月26日
視察市町	たつの市御津町 室津地区	参加者	11名

概要

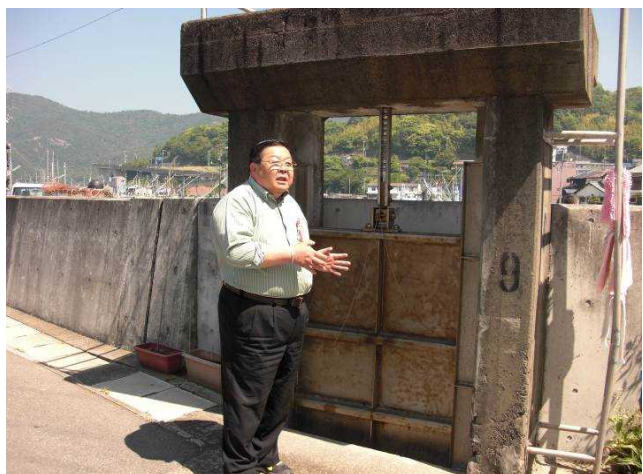
- 平成16年に室津漁港付近でも家屋が「高潮被災」を受けた。
- 平成23年に発生した東日本大震災の津波で船舶が周辺の民家を破壊する画像を見て、危機感を持ち自主防災会が中心となり、港湾の防災対策と住民避難訓練に取り組んだ。避難訓練は地域の地理を反映し「孤立化」を想定し陸・海・空の支援体制を受けた大規模なものとなった。



潮位計について説明を受ける



室津センター内からも見える



大西正清室津代表区長による説明



各種防潮堤について説明を受ける





標高表示(2 m)



避難場所誘導標識



避難訓練結果説明と意見交換



大西区長と視察メンバー

コメント

- ①H23年9月「陸・海・空3連携の自主防災訓練」を実施。津波到達を想定、住民の約70%(765名)が参加する大規模な訓練を実施している。
- ②H25年9月「夜間津波避難訓練」を実施。夜間津波到達を想定、住民542名が参加した。
- ③H26年11月「豪雨体験で学ぶ避難防災訓練」(体験型)を実施。住民609名が参加した。
- ④防潮堤整備、誰でも常時見れる潮位計の設置などハード面の対策も強化している。

区分(被災)	河川氾濫・浸水被災	視察年月日	平成27年6月30日
視察市町	赤穂市 有年地区	参加者	10名
概要	平成16年台風21号の影響で9月28日～29日に掛けて豪雨となり、29日夕方には千種川・矢野川・長谷川の水量が堤防を越すほどになり、一部は溢水し、居住地区へ流入。床上、床下浸水等の被害が発生した。一部地区では158cmの水位にまで達した。又、国道2号線も冠水し、トラック運転手等は横断陸橋へ難を逃れ、後に消防団員のボートで救助された。		



沖連合自治会長と松田自治会長から被災状況報告



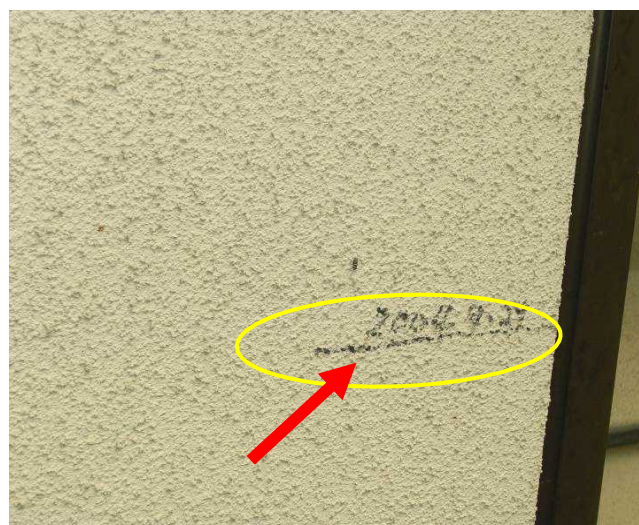
赤穂市危機管理課平野課長、万代係長同席



視察メンバーと闊達な意見交換



沖自治会長宅も床上浸水した



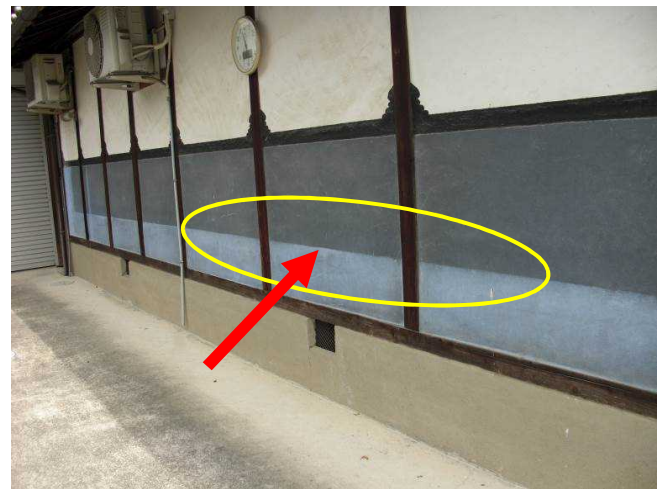
被災当時の水位(90cm)をマーキング



沖宅の道路対面に設置した消火栓器具保管箱は水没



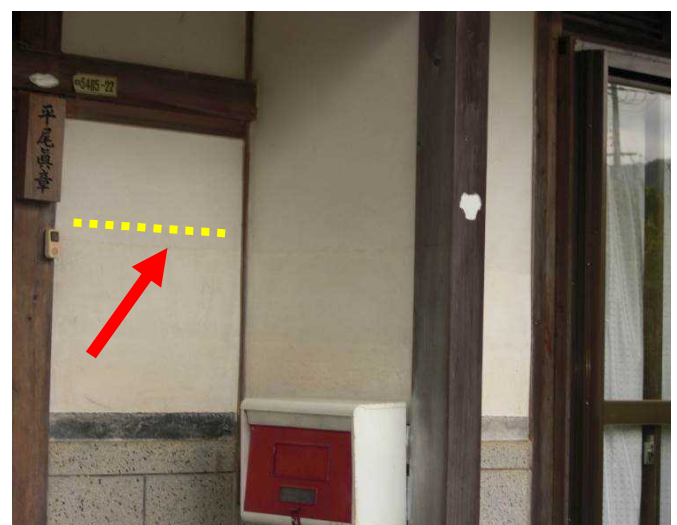
白壁に10年前の水位痕跡がある



民家の壁にくっきりと残る災害の痕跡



玄関は完全に水没した



10年前の水位痕が残る



浸水痕の説明を聞く



崩落改修工事箇所



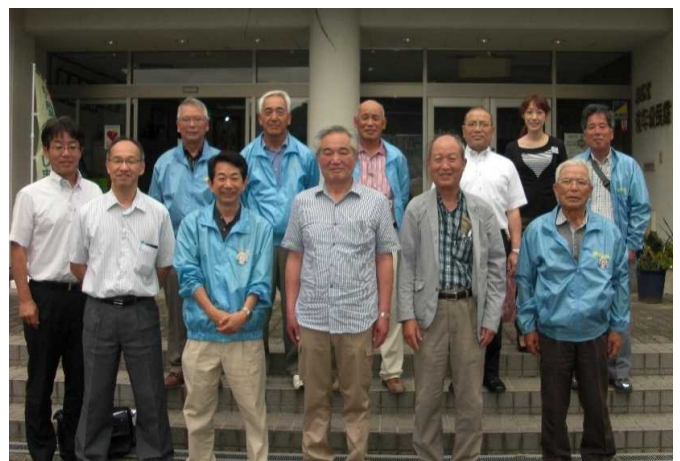
向こうに見えるのが嵩上げされた堤防



避難所までの道路が低い。嵩上げ工事を11月から実施する



有年中学校（避難所）



沖、松田自治会長と視察メンバー

コメント

- ①H16年9月に発生した浸水被害から10年経過を機に地元自治会が小学校、中学校で当時のスライドや写真をもとに講演した。「災害風化防止」の為、今後も継続的な活動をお願いしたい。
- ②災害記憶の伝承として「水位痕跡表示」などがあれば良いと思った。
- ③地元自治会の意見が行政へも伝わり河川堤防工事などハード面の対策に繋がっている。

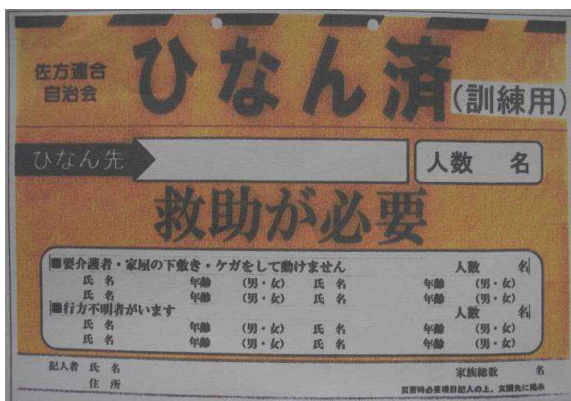
区分(防災)	総合防災訓練	視察年月日	平成27年7月28日
視察市町	相生市 佐方地区	参加者	9名

**概要**

- 昭和46年、集中豪雨による河川氾濫、床上浸水、国道250号線の崩壊等、甚大な被害が発生したが、河川改修工事、排水ポンプの設置等の対策により、以降甚大な災害は発生していない。沿岸地域にあり、高潮被災を警戒している。
- 平成21年台風9号による近隣地域の被災を踏まえ避難訓練を実施している。内容は、初期消火訓練、救護・救出訓練、炊き出し訓練等、総合避難訓練(H22年6月、H24年6月、H26年10月に実施)



滝井佐方連合自治会長より避難訓練状況説明を受ける



避難確認証 (戸別掲示用)



造成中の大規模ソーラー発電建設現場



海拔標識



相生市から松本課長、橋本防災監も出席頂きました

**コメント**

- ①過去に人的被害を伴う土砂災害が発生したが、河川改修工事、排水ポンプの設置等の対策を行い、甚大な災害は発生していない。近隣地域の災害状況を踏まえ危機意識を持った自治会が相生市の避難訓練と連携して定期的実施している。
- ②定期的に住民意見を反映した防災訓練を実施し、災害風化を防止している。
- ③「災害時安否情報等確認書」「避難確認証」は他地域でも活用できる。
- ④傾斜地に造成中の大型ソーラー発電事業について環境問題、防災の視点で問題提起が必要。

区分(防災)	総合防災訓練	視察年月日	平成27年9月24日
視察市町	太子町 鵜 北之町地区	参加者	8名
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和51年9月、台風17号の影響による浸水、土砂災害が太子町東部(太田地区)で発生したが北之町地区は大きな被害はなかった。</li> <li>・北之町自治会は650世帯、約700人の会員数。エリア内に重要文化財のある斑鳩寺があり自治会も斑鳩寺防災組織に加わっている。内、自主防衛隊員は90名。</li> <li>・平成17年6月に自主防災組織を立ち上げ、自主防災大会(講演会)、防災訓練、視察研修を開催している。兵庫県から表彰を受けている模範的自主防災組織。</li> </ul>		



須方自治会長より地区概要説明



生活安全推進チームの活動説明



田中勝明氏より自主防災活動について



北之町自治会役員の皆さんと視察メンバー



自治会役員の皆さん 右列(8名)

コメント

- ①防災組織立ち上げの根底に阪神淡路大震災の被災者支援体験による強い危機感があった。
- ②H17年以降、防災行事のメニューを工夫し、毎年毎年訓練を繰り返す事で地区住民の防災活動に対する理解と信頼を得ている。
- ③DIG訓練、クロスロードゲーム等、ゲームの要素も織り込んで体験型防災訓練を行っており住民を巻き込んだ活動になるように配慮している。
- ④自主防災組織隊員の確保が仕組みとして完成されており地区に定着している。



区分(防災)	総合防災拠点(自然災害全般対策)	視察年月日	平成27年11月26日
視察市町	揖保郡太子町	参加者	13名

概要

- 太子町旧庁舎は老朽化が著しく、特に北側の三階建ての建物は耐震性が低く不安全だった。
- 又、駐車場スペースも狭く利便性に欠けており、多くの町民にとって新庁舎は長年の願望だった。
- 新庁舎は平成27年9月5日「人がつどう まちをめぐる 太子がつながる」をコンセプトに竣工した。
- 新庁舎は災害時には、災害対策本部を設置し、防災拠点、避難拠点として機能する。



災害対策室にて栄藤課長より概要説明を受ける



2 F 縁側広場



2 F 縁側広場 (災害時は避難場所になる)



各スペース(室)の説明



1 F 交流ラウンジ(PCも自由に利用できる)





1 F 街道交流広場（防災広場）



1 F カフェ「はらっば」



1 F 太子町議会室



防災備品倉庫



行政ゾーン1 F 総合案内所



栄藤課長（中央向右）と視察メンバー

コメント

- ①新庁舎は震度6程度の地震に耐える耐震・免震設計で建築され、災害発生時は3Fの「災害対策室」が対策本部となり、防災拠点として機能できるように設計されていた。
- ②新庁舎は行政ゾーン、交流ゾーン、議会ゾーンに分けて配置され、各ゾーンを繋ぐ交流広場と街道交流広場を「防災広場」と位置づけ各広場を「避難拠点」としていた。
- ③その他、若者や住民が自由に利用・活用できるスペースや部屋があり、気軽に庁舎を利用できる環境が整っていた。

## ■ まとめ

私達は西播磨地域を約1年間かけて、各市町の代表的な自治会を訪問し、被災体験や、防災・減災対策、総合避難訓練の取り組みについて聞き取りを行った。東日本大震災の被災状況や、災害が発生する都度、リアルタイムでテレビやインターネットを通じて報道される災害情報が、西播磨地域においても防災・減災意識の向上に繋がっている事を感じた。

西播磨地域では、平成21年に甚大な被害を及ぼした台風9号の影響による河川氾濫、土石流、浸水被害等の災害対策をはじめ、避難指示のタイミング、避難行動のあり方についても官民あわせた議論の焦点の一つとなり、自分の命は自分で守る「自助」志向を高める契機となった事も訪問地域で感じた。

西播磨地域には、山間部や港湾部、一級河川に隣接した地域など、様々な地理的、地域的特性があり、防災・減災に関する取り組み方も異なる事が分かった。

総じて過去に大きな災害を経験した地域は、住民の連帯が必須である事を体得しており、災害記憶の伝承や住民台帳の整備など「共助」体制も充実していた。

反して、市街地域では、自主防災組織の防災意識は高いものの、有事における救護要員が確保できない。個人情報保護の関連から、住民台帳の整備が困難であるとの課題も伺えた。

### 編集：第7期西播磨地域ビジョン委員会 生活安全推進チーム

チームリーダー	田野本 満男
サブリーダー	坂元 淳
サブリーダー	濱上 廣良
	赤木 和雄
	嶋澤 清美
	塚本 敏明
	寺田 勝
	東南 武士
	西側 禎男
	萩原 芳一



西播磨地域ビジョン委員会 事務局  
兵庫県西播磨県民局 県民交流室 県民活動支援課

場所：〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都 2-25  
TEL：0791-58-2115 FAX：0791-58-0523